

突然の9月入学騒動

コロナ禍に降ってわいた「9月入学」。目新しさを求める政治家らが飛びついたが、次々に課題が指摘されると、一気にしぶんが。現場を置き去りにした「騒動」から見えるものは——。

小針
誠さん



1973年生まれ。教育社会学、教育社会史。著書に「アクティブランニング 学校教育の理想と現実」など。

学校制度が始まつた明治初めには、入学時期も年齢も異なる子どもが一緒に学び、試験で進級していました。それが1890年前後に、明治政府は同年齢の子どもからなる学級制を始め、会計年度と同じ4月を起点としました。憲法や内閣制などの国家体制を作っていく中で、「均等な国民教育」もその一環だったので

を追求するためには、日本の学校教育がどうってきた一貫履修主義の問題——つまり「子ども全員に同じじ力りキヨフムを教えた」という建前で、決まつた時期に金員を卒業させる「とにかく金員式」の教育——は今、多くの弊害を生んでいます。学校現場は国が定めた學習指導に追われ、親も子どもも既定路線による

育システムが因です。
9月入学はいったん見送ら
きた
れる方向ですが、今回の論議
は学校の常識を相对化して考
える格好の機会です。海外で
は、入学や卒業の時期を選べ
る国も多い。個別の習熟度や
子どもの関心に対応した学び
もあります。日本も一斉主義を
打破し、それを対応できる
学級規模や柔軟なカリキュ
ラムを探り入れた方がいい。
10年後の次回の学習指導要領
改訂に向けて準備することを

青山学院大学教授

少し外れれば「ドロップアウトする」とおびえます。

今年度に始まつた新学習指
導要領は、アクティブラーニ
ングやプロジェクトラーニングなど盛

日本では教育が社会的問題として扱われてゐる。これは、学校教育だけではないわけではなく、家庭教育、社会教育など、幅広い意味での教育が問題視される傾向にある。このことは、子供たちの成長過程で、多くの問題を引き起こす要因となる。特に、子供たちの成長過程で、多くの問題を引き起こす要因となる。

末富芳さん

日本大学教授

A black and white portrait of a woman with dark hair and glasses, smiling.

1974年生まれ。専攻は教育行政学、教育財政学。子どもの貧困対策センター・公益財団法人あすのね理事。

これまででも政治家は「教育基本法の改正や愛國心の強調など、教育を「国民統合」の手段として安易に使ってきました。今回も当事者の不安を利用し、現場の意向も顧みず、「改革」をぶち上げました。大学入試の英語民間試験や記述式試験の導入失敗は、記憶に新しいですが、コロナ禍でも繰り返されたのです。

安倍晋三首相は2月末、専門家に諮詢らず、全国一齊体操を要請。地域の事情も考慮せず、

日本教育学会の試算によると、来年から9月入学を導入した場合、各学年で入学時間が5ヵ月延び、約7兆円の財政負担や家計負担が生じます。行政の会計年度（4月から翌年3月）ともすれば、学校の教職員の仕事も増えます。新型コロナへの対応に追われる現場は、さらに弊し混乱するでしょう。

今、なによりも優先すべきは、今度の冬に受験す

る入期財増き
治応重づ
かまけられ
る場合ではあります。
政治家のみなさん、教育を実験台にして、政治による新たな災害を引き起こすのはやめてください。子どもや若者たちの尊厳を守り、学ぶ権利を尊重してください。これを切に願っています。(聞き手・桜井泉)

いったい何のために、「9月入学」を導入しようとしたのでしょうか。膨大なコストがかかるのに、目的もはつきりさせず、政治家たちは暴走してしまいました。コロナ禍の「火事場」に直面し、グローバル化という言葉に踊らされ、9月にリセットすればうまくいく、と思考停止に陥りました。しかし思えません。これまでも政治家は、教育の問題で、子供たちの学びを奪うことが、リーダーシップを見せるため道具に使われたとすれば大問題です。直近の「9月入学」は見送りの方向ですが、今後の動向も注視する必要があります。首相はこれをレガシー（遺産）にしようと考えているかもしれません。が、すでに国民も分断してしまい、実現は難しいのではないかでしょうか。証されています。

の9月入学
心います。
高校で大事な
いがちな子ど
のためのスタ
たりすること
震災のときには
り組みが、学
うたことが実

中学生3年生や高校3年生、就活生の不安を緩和することだと思います。例えば、入試の出題範囲を絞めて、受験生に示すことが急がれます。